



## 審 議 経 過

### 1 開 会

山口係長：11名の委員が出席，守谷市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱（以下「要綱」と記す。）第5条第2項により会議は成立。傍聴者は1名。

### 2 挨拶 宇田野教育部長

### 3 策定委員の紹介

山口係長：委員は，要綱第3条第2項により選任。任期は，推進計画の策定が終了するまで。委員長は，要綱第4条第1項により守谷市教育委員会教育部長となる。

各委員・事務局：自己紹介

### 4 審議事項

#### （1）第四次子ども読書活動推進計画策定の概要について

山口係長：第四次計画の期間は，令和4年4月から令和9年3月までの5年間。計画の対象は，幼児から中学生まで。計画の公表は原則，市及び図書館ホームページを活用し，計画書の作成部数は最小限にする。

～質疑なし～

#### （2）計画策定スケジュールについて

—事務局から【資料1】計画策定スケジュール（案）を用いて説明—

- ・策定委員会は，11月の計画案策定と1月の最終案の際に開催を予定。

～質疑なし～

#### （3）アンケートについて

—事務局から【資料2】アンケート実施要綱（案）を用いて説明—

- ・個人アンケートの対象は，小学2年生，小学5年生，中学2年生とその保護者及び4歳児保護者4,791人。

- ・小学2年生と4歳児保護者以外は，グーグルフォームで回答を予定し，対象人数は，3,433人になる。

- ・施設アンケートの対象は，市内保育園，幼稚園，小規模保育園，認証保育園の49施設。

宇田野委員長：なるべく依頼先に負担がない形で，紙も少ない形でやってほしい

—事務局から【資料3】子ども用アンケート（案）を用いて説明—

- ・前回アンケートで，その他に記入が多かった内容を選択肢に追加した。

・電子情報機器の利用についての質問を追加した。

黒沼委員：問2「嫌いな理由」と問8「読まない理由」は同じような選択肢が入ったほうがいい。問3の質問文だけだとわかりにくい。読み聞かせ等の言葉を入れたほうがわかりやすい。問18は複数回答ではないか。問27で例示があってもいいのではないか。

宇田野委員長：意見を加味して、再検討してほしい。本を読むことが嫌いな理由と本を読まない理由を聞いているが、かぶるので1回の質問で済む。嫌い、読まないを一緒にして回答してもらえばよいのではないか。回答者にわかりやすい質問にする方がいい。

奈幡委員：守谷市で実施している読書後の表現活動や第四次計画のポイント、第三次計画の反省を反映させた質問項目は、このアンケートの中にあるかを聞きたい。

山口係長：このアンケートは、第一次と第三次計画時に実施しており、推移を把握するために、(第四次も)同じ質問項目で実施したい。読書後の表現活動については、アンケートに含まれていない。

奈幡委員：第四次計画でアンケートがどのように反映されるかを知りたい。

山口係長：アンケートの結果と第三次の実績をまとめた形で小中学校や幼稚園保育園と相談して、計画に取り込んでいく。

奈幡委員：学校図書館との連携が重視されて数年が経過しているが、その検証が必要と思っている。

宇田野委員長：意見を踏まえて、第四次計画で内容を示してほしい。アンケートの最初に、本の定義を示したほうが良い。学校図書館に行かなかった理由と公共図書館に行かなかった理由が違うので、選択肢は同じようにした方がいい。

—事務局から【資料4】保護者用アンケート(案)を用いて説明—

・4歳児保護者用のアンケート用紙には、フォームで回答したことがわかるように、フォーム回答の欄を付けた。

・前回アンケートで、その他に記入が多かった内容を選択肢に追加した。

大塚委員：問3・問4は、同じような表現にした方がわかりやすい。回答者自身への質問は、回答者が保護者であると明確にわかる記述にした方が良い。問12で子どもと回答者の関係を質問しているが、最初の項目にする方が良いと思う。問11は、読み聞かせをしてもらったか、又は「誰かに」といった言葉を入れたほうがいい。問14「ブックスタートを受けて」という表現は、わかりにくい。

宇田野委員長：ブックスタート事業を知らない・覚えていない人がいるので、その説明を入れたほうがいい。保護者用のアンケート用紙は配付されないという認識でいいのか。

山口係長：小中学校は配布しない。4歳児保護者には、用紙を配付するが、その

なかで、フォームで回答しやすい保護者はそちらで回答してもらおう。

宇田野委員長：その場合、紙を回収するのか。

山口係長：配信だけの幼稚園は、配付回収は不要。アンケート用紙を配付しフォームで回答したとき、先生が保護者に対して催促しないようにフォーム回答の欄を付けた。

石川(葉)委員：アンケートは無記名なので、催促することはできない。

石川(み)委員：催促できないのでアンケートの回答率は下がるかもしれないが、やむを得ないと思う。

山口係長：アンケート用紙は、記入したものだけを回収する方法にする。

宇田野委員長：回収だけでも作業が大変なので、回収用の箱を用意するなどしたほうが、作業軽減になるのではないか。依頼する幼稚園や保育園に相談してほしい。

—事務局から【資料5】施設用アンケート（案）を用いて説明—

- ・学校は、同様のアンケートを今年度実施しているので、調査対象に含めない。
- ・前回のアンケートで子ども読書の日に関する質問は、幼稚園保育園で特に実施していないので、今回のアンケートから削除した。
- ・読み聞かせの普及啓発活動については、幼稚園保育園の役割の一つと考え、追加した。

小林委員：問4が抽象的すぎる。具体的なサービスを入れてみればどうか。

宇田野委員長：既存のサービスを挙げれば、知ってもらうきっかけになる。考えられる新しいサービスも希望されているかを聞くことができる。

山口係長：企業主導型保育所や障がい児施設での読書活動を把握するためにアンケートを送っていいものか。

宇田野委員長：対象が子どもであれば、計画に含めるべきと思う。アンケートに協力していただけるのであれば、趣旨を説明してお願いします。

大塚委員：アンケートの内容は同じであると言っていたが、趣旨をよく説明することが大事で、新しく調査する施設については、何か文書を添えるなり電話で伝えるなりした方がよい。

宇田野委員長：わかっていたいて、アンケートに答えていただくことが大切。

山口係長：資料として出してはいないが、アンケート集計数を多くするために、他市町村のアンケートで実施しているような教職員向けや一般向け・ボランティア向けのアンケートをする方が良いのか。

奈幡委員：アンケートは目的ではなく、方針を決めるツールであり、逆算していくものである。学校司書の先生に情報をリサーチすると、いろいろな提案が出るのではないか。

宇田野委員長：アンケートは、計画に生かすために何を聞きたいかを明確にしなければならぬ。追加で意見を伺いたいときは、委員会として集まらなくても、報告という方法や、個別に伺う方法は可能なので、事務局は精査する

ように。

#### (4) その他

古橋委員：次に集まるのは11月の計画案策定になるが、どういうイメージで行うか。

山口係長：各所にアンケート結果と計画を事前に提示して意見をいただいたものを、最終的に計画案として皆様にお諮りしたい。

宇田野委員長：アンケート結果から素案までは事務局で作成し、なるべく早く委員に提示し、次回の開催としてほしい。

奈幡委員：イメージを出すにあたって、読書の多様な読み方を認めていかないと読書が広がっていかないと思う。本を身近にする手立ては、学校司書が良く知っているので、そういった識見も踏まえながら、計画に反映されるといいと思う。

宇田野委員長：読書は義務的になると嫌いになってしまう。アンケートで好きかを聞くことも、子どもによってはプレッシャーになる。せつかく計画を作るので、読書はそんなことはないということも含めて伝わるといい。以上で会議は終了となるが、事務局には、なるべく早く調査結果と素案を委員に提示するようお願いする。